

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

～ ICT 化、多様化に対応し、国内外で社会貢献できる人物を育てる学校をめざす ～

- 1. 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することをめざすとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育む
- 2. 多文化理解教育を一層推進し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力に加えて世界の国の文化や伝統を理解し尊重する態度を身につけることで、文化が異なる人々と協働して社会の諸問題の解決に向けて積極的に行動する人物を育てる
- 3. 豊かな心や社会人基礎力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化【授業力】

- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する
 - ア 生徒にめざす資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業力向上を進める
 - イ 「観点別学習」を進めるとともに計画・実践・評価・改善という一連の活動を繰り返すことで指導と評価の一体化をめざす
 - ウ 生徒が学習において「思考力・判断力・表現力」を自在に働かせることができるようにするために、教師が専門性を発揮する
 - エ ICT 等を活用して学習活動等を充実する
 - ※ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定的回答を令和7年度70%となることを目標とする(R02:66.6%, R03:61.4%, R04:59.8%)
 - ※ 授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定的回答を令和7年度も80%台を維持することを目標とする(R02:81.7%, R03:82.4%, R04:84.9%)
 - ※ 授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」についての肯定的回答を令和7年度も80%台を維持することを目標とする(R02:85.6%, R03:85.7%, R04:87.4%)
 - ※ 英語検定準2級相当以上の合格者合計が令和7年度180名となることを目標とする(R02:67名, R03:254名, R04:88名)
- (2) 基本的な知識及び技能を確実に習得させる。また、これらを活用してSDGsの諸問題を始めとした様々な課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む
- (3) 個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮する
 - ※ 大学入学共通テストに向けた対応、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用を図る
 - ※ 国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数が令和7年度には250名以上となることを維持する(R02:241名, R03:325名, R04:285名)

2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成【自律・自己実現】

- (1) 体験活動や、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな感性や創造性の涵養をめざした教育の充実に努める
 - ア 総合的な探究の時間やHRを活用し、生徒の生きる力の醸成を図る
 - イ 部活動や有志の地域行事への参加等を通して、ボランティア活動への意識を高める
- (2) 豊かな感性をもち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、他の国や文化を尊重し、未来を拓く主体性のある人物の育成に努める
 - ア 普通科、国際文化科の両科とも国際感覚を醸成すべく、校内国際交流、海外語学研修や留学生受入れ等に取り組むとともに日本文化への理解を深める
 - イ 学校行事、国際関連行事、語学研修や部活動を通し、社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。また、生徒が夢や志を持って自身の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を育む
 - ウ 地域住民や小・中学校、企業、大学、行政等の外部機関の専門的な知見やフィールド等を活かした連携を通じてさらなる教育内容の充実に努める
 - エ 集団活動に積極的に取り組む機会と環境を提供し、自他の違いを認め、協調し、「協調友愛（校訓）」の精神を培い、他者と望ましい人間関係を構築できる人間性を育む
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできるしなやかな心と規範意識を育む
 - ア 自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる「自主自律（校訓）」の精神を醸成する
 - イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う
 - ※ 頭髪、服装の乱れ、不注意による遅刻がないように指導を継続する 遅刻について、令和7年度1500件以下に減ずることを目標とする(R02:1458件, R03:1572件, R04:2942件)
 - ※ 部活動加入率（3学年平均）が令和7年度には70%になることを目標とする(R02:57.9%, R03:58.2%, R04:62.8%)
- (4) 安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにする

3 学校の特色づくりと組織力の向上【学校運営】

- (1) 学習活動、学校行事、部活動などの教育活動に関する教職員の共通理解を深め、学校全体で「旭で伸ばす」の目標を持ち、邁進できる組織を構築する
 - ア 将来構想委員会を核として、「これからの旭」の課題解決を図るとともに、教職員が常に「改善」の意識を持ち、PDCAによる学校改革、授業改善に更に一丸となって取り組むよう努める
 - イ グループウェア等を活用し、校務運営の効率化を進める。
 - ウ 運営会議、職員会議などの充実を図り、教職員間の意思の疎通を図る。よりよい校務分担体制を確立し、学校運営を円滑に行う
- (2) 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する
 - ア ICTを活用した取り組みを推進し教職員が機器を効率よく使用できるよう研修を行う。生徒の学びの深化を図ると同時に、校務の効率化に繋げるさらに、経費削減の意識を持って教職員間で使用するペーパーの削減をめざす
 - イ 学校休業日や部活動休養日の設定などに取組み、生徒、教職員が心身ともに健全であるように努める
- (3) 学校の特色の共通認識と広報活動の充実を図る
 - ア ホームページやパンフレット等を充実させて効果的な情報発信をすることにより広く学校を理解してもらえるように努める
 - イ 校内美化に努めるとともに、令和7年度に向けて校内設備の安全と充実を図る

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
※数字は学校教育自己診断の回答のうち肯定的評価の割合(%)を示す。 （「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合） I 保護者からの回答に関して (1) 回答率 63.0% (2) 学校生活全般に関する設問について、 1,子どもは学校行くのを楽しみにしている (82.7) 3,生活指導の方針に共感 (66.7) 4,将来の進路や職業について適切な指導 (68.6) 5,子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる (57.9) 13,学校はいじめについて子どもが困っていれば真剣に対応 (27.4) ■「生活指導方針に共感」については、やや上昇した。 ■「将来の進路や職業について適切な指導」は、やや上昇した。 ■「子どもの心身の健康について気軽に相談できる」は、やや下降した。 ■「学校はいじめについて…真剣に対応」について肯定的な回答が昨年度と比べやや増加。今年度も、同じ問いで「判断できない」との回答は 67.6%（昨年 69.2%）と多かった。いじめ状況そのものが少ないので、「わからない」との回答が多いと考えられる。 毎年3回、全生徒へのいじめ等（安心安全生活）アンケートなどを引き続きおこない、いじめを見逃さない取組みを続けたい。 (3) 学校行事（特別活動）に関する設問について 6,学校行事は子どもにとり有意義 (95.1) 7,人権尊重の意識や社会ルールを育成 (69.8) ■学校行事に関しては、本年度は高い水準を維持している。感染防止対策をとりつつ、体育祭・文化祭を実施した。今年度も修学旅行の行先を国内（北海道）に変更して実施した。 (4) 学習活動および学習環境について 2. 子どもは授業がわかりやすく興味深いと言っている (50.0) (生徒の「4,授業はわかりやすい」の回答 69.8) 9.学校の施設・設備は学習環境面でほぼ満足できる (45.2) ■「授業がわかりやすく興味深い」と家庭で話している生徒は、毎年少しずつ増え 50%になっている。しかし同じ質問の生徒回答では 69.8%であり、約 20%多くなっており、差が見られる。 ■同じ質問で保護者の 21.0%（昨年 38%）、生徒の 30.0%（昨年 35%）が「あまりあてはまらない」、または「まったくあてはまらない」と回答している。保護者、生徒とも減少したが、一定数の保護者が、生徒が授業を理解できているか心配している様子うかがえる。 ■一方、教科別に全員回答する授業アンケートの評価は高い。 【参考】全科目対象全生徒による授業評価アンケートより ・授業の進度や難易度は自分にとって適切である (89.7) ・毎時間授業の目標や大切なポイントを説明してくれる (91.8) ・先生はプリント等の教材や ICT 機器を効率的に活用している (90.1) ・生徒が考える時間や発表する活動を多く取り入れている (89.1) ・生徒の意見や要望を取り入れ授業改善に生かしている (84.7) ■施設面では、トイレの改修等の要望が多い。一部改修済み。 ■本年度は電子機能付きプロジェクター対応黒板の導入を行った。 II 生徒からの回答に関して (1) 学校生活全般に関する設問について 1.学校へ行くのが楽しい (85.1) 20.学校生活の満足度 (81.8) 21.後輩に旭高校を勧めるか(68.7) ■本校での高校生活を楽しんでいる生徒が増加している。 ■「旭高を後輩に勧めるか」との設問では、3年生では微増したものの、1年生、2年生では減少している。特に昨年度の1年生と今年度2年生を比べると減少している。 (2) 学習について 2.先生は生徒の意見を聞いてくれる (81.0) 3.授業はわかりやすい (69.8) 4.授業で分からないところについて先生に質問しやすい (76.2) ■「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定的回答は約 80%台となった。 ■「授業で分からないところ…質問しやすい」の肯定的回答は 10 割上	■第1回 令和5年6月26日（月） 〔学校経営目標と取組みの現状報告〕 ○家庭学習時間（授業外の自主的学習時間）について。 ・0～30分は一昨年より減少し、2時間以上が増加傾向にある。全校的な把握と同時に、入学期毎の経年変化や学年毎の数値比較などのよる分析も必要。 ・「創業は易く守成は難し」とあるように、70 余年の伝統を踏まえるとともに「旭高校のこれから」を見据えていきたい。 ・家庭学習 0 からの脱却をめざして、家庭学習の強制から自走への取組みを構築していくことが大事。 ・部活動と学業の両立についてもめざす。部活動自己コントロール力を身につけ、部活動から学業へとつないでいく視点も重要。 ・今の旭高校の強みとして、「進路実現への軌道」が挙げられる。保護者からの評価が高い項目として、「進路実績」と「国際交流」がある。 ・宿題の量を増やすだけでなく動機づけが大切。いかに宿題と授業との関連性を高めるかということ。 ○学校生活の満足度について。 ・進路指導に関する項目への満足度が高い。 ・「中学校の後輩に進めたいか」という生徒のアンケート項目に対応する保護者の項目の伸びが欲しいところ。 〔協議〕 ○進学について、国公立大学や私立大学への進学実績が良好なことについて、「この取組みが良い結果につながった」ということがあれば聞きたい。 ○昨年度の卒業生は1年生のときから学年の取組みとして「何科目、何分勉強したか」をグーグルフォームで入力し、学習の見える化に取り組んだ。初めはしない生徒も多かったが、担任が残って一緒に入力することで定着を図った。2週間ごとに印刷したものを渡したことにより、「0時間が続くともずい」と自分で気づくことができたと分析する。 ○進学希望者セミナーや進学説明会について、本校生の特徴としてスタートが遅くて受験本番に間に合わない生徒が多くいる。2年生の秋ごろには受験生へと切り替えるための集会、志望校別〈国公立、私立など〉の集会、各大学関係者を招いての説明会を実施している。こちらからアプローチをかければ参加する生徒は多くいる。 ○家庭学習の質問項目に、塾や予備校は含めるか。 ○家庭以外（学校の授業以外の学習機会、自主的な）での学習時間を含める。質問事項としてブレの無いような項目にしなければ比べられないが。 ○小学校でも家庭学習は課題となっている、取組みとしては以下の4つ。 ①算数の本（問題集）を1冊修了した生徒には校長から表彰 ②オンラインでプリントをダウンロードし個別に学ぶことができる（こっそり弱点を克服できる） ③PCを持ち帰らせてプレゼンテーションソフトで発表させる ④5～6年生は自学ノートにウェブデザインについてまとめる ○家庭学習について、自主学習を促すポイントとしては、自分事として考えさせること、自己決定の機会を与えること、おもしろいと思わせる（興味を持たせる）こと、生徒自身に選ばせることが大切。家庭学習時間を「見える化」した取組みは重要だ。 ■第2回 令和5年11月27日（月） 〔授業見学〕 ○ディベート、情報など、自身が高校時代に受けた授業に比べるとずいぶんスタイルが変化している。 ○同じくディベート授業では、各クラス活発でにぎやかだった。机に向かうだけでなく、交流があると学習した内容が定着する。いい手法だと思う。情報の授業ではプログラミングに取り組み、驚いた。生徒たちは楽しそうにやっていた。 〔協議〕 ○大学見学を夏休みの宿題として課されており、保護者としては安心感を覚える。 ○欠席者の増加について、コロナ禍の影響かも知れないが、簡単に欠席してしまう面がうかがえるのではないか。 ○定期考査で施行されているデジタル採点システムは、教員の働き方改革に有効なのか。また、生徒たちへのメリットはどういう点か。 ○少なくとも、教員にとっては採点事務の時間短縮につながり、また、生徒にとっては考査実施から答案返却までの時短メリットがあると言える。すべてAIが自動採点するものでないが、最終的には教員による丁寧なチェックが重要となる。 ○地域から見た旭高校について。近隣中学校の生徒たちは毎日旭高校の生徒を見ている。ずいぶんと以前より雰囲気的に良くなっているように思う。小中高一貫教育と生徒たちが発言するくらいに地域に密着している。 ○小中学校における働き方改革について。行事日や考査機関など、17時で留守番電話に切り替えているが、部活動や生徒指導で個別の対応をしなければならない場面も多い。 ○電話対応が17時までと決まっていれば、保護者もその時間までしか連絡できないと準備できる。先生方の負担にならないようにと考えている。 ○真に憧れの学校になるためには、勢いのある学校にならねばならない。どういう形でアピールしていくかが大切。学校の強みだけでなく、弱みについても洗い出す必要がある。

昇した。100%をめざしたい。 ■「授業はわかりやすい」の肯定的回答が増加傾向にある。 (3) キャリア教育・人権教育について 10. 将来の進路や生き方について考える機会がある (90.4) 14. 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある (88.4) ■進路について考える機会について、年々肯定的回答が増加している。進路行事を多彩に企画し、進路を考える生徒のよいきっかけにできているといえる。 ■また、命の大切さ、個人の違いを理解し尊重すること、よき関係を保つために社会のルールについて学ぶことなど、教育活動全全般を通じて取り組んでいる。 (4) 家庭学習時間について 22. 平日の勉強時間 0 ～ 30 分 (53.9) 1 時間 (23.9) 2 時間以上 (22.2) 23. 休日の勉強時間 0 ～ 30 分 (50.8) 1 時間 (19.6) 2 時間以上 (27.5) ■平日休日とも勉強時間が 30 分以下の生徒が昨年より増加した。それとともに、2 時間以上学習する生徒の割合が減少した。 ■今年度 11 月現在の通塾率は 24.0% (1 年 22.0% 2 年 25.8% 3 年 44.5%) ※R04 は 41.5% Ⅲ その他全般に関して 11. 学校からの連絡を子どもがもらさず伝えている 保護者 (61.4)、生徒 (78.1) 10. 学校が家庭連絡を積極的に行っている 保護者 (68.2) 16. 保護者が旭高校のどこに最も注目しているか 教育方針 (14.9) 生徒会活動や行事 (18.8) 進路実現 (45.0) 国際交流 (16.4) 部活動 (4.9) ■学校からの家庭連絡については、今後とも連絡用メールでの緊急時の対応やHPの充実など、情報発信に努めていきたい。 ■本年度も、進路実現の注目度が高まっている。	■第3回 令和6年1月26日(金) [R5 学校評価(案)及びR06 学校経営計画(案)、R05 学校教育自己診断の分析] ○(生徒対象)「授業がわかりやすい」の肯定的評価 65%以上が目標では、昨年度 59%から今年度 70%へと伸びている。10 歳以上の大幅増。ただ、うち「よくあてはまる」は 13%にとどまる。 ○進路説明会等の実施では、進路指導に対する攻めの姿勢がうかがえる。 ○「人権について学ぶ機会がある」の数値が上昇している。 ○(教員対象)「生徒問題行動への組織対応」については、肯定的評価が 83%から 64%に大幅に低下しており、今後、分析と対策が必要である。 ○進路指導に関する評価が高いのが特徴と言える。 ○部活動の加入率 64%。毎年微増している。 ○遅刻回数が激増している。 [協議] ○手厚く指導してくれている。国際文化科のクラス内で、留学生とも交流できて、楽しく過ごしている。スペイン語・スペイン文化を学んで充実している。担任からもフォローいただいている。 ○自己診断から、「学校が楽しいという割合が増えたが、後輩に勧めるという割合が下がった」の理由の分析が必要である。 ○後輩に勧めるかは、人それぞれのニーズによる。好きなところに行けばいいという発想で回答しているのかもしれない。 ○不安定な社会構造の中、勉強することが良い将来へと導くという道筋が見えないのではないか。自分の将来を自分事として捉えられるような働きかけが必要である。 ○勉強に集中することの難しさが考えられる。コロナ禍以降のライフスタイルの変化が、勉強時間の少なさに反映されているかもしれない。 ○わが子の様子を見てるとストレスマネジメントができていているように感じる。進路のことも話すなど、変化を始めている。 ○コロナ禍の影響は今後もっと出る。学習面や私生活の部分でも大きく変わっている。 ○大学では特に著しい変化を感じることはないが、プレゼンテーション・スキルは向上している印象を持つ。授業の機会はそれほど欠けてはいないが、サークル活動等に制限が大きくあったので、それをどう捉えているか心配ではある。 ○授業のわかりやすさについて、生徒は高い評価だが、保護者との差が見られる。保護者は子どもの点数を見て懐疑的になるのかもしれない。 ○授業レベルをどこに設定するかが大事かとも思う。 ○中学生の進路希望調査では、国際文化科が軒並み定員を下回っている。国際文化科のニーズについて、また、教育活動の内容について、しっかりと分析し、積極的に対策を講じる必要がある。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R4年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化 授業力	(1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点に基づき育成する	(1) ア ①「主体的な学び」 本校の「キャリア・パスポート」である「AsahiCard」を活用する。学びのプロセスを生徒自身が記録し蓄積することで変化や成長を自己評価し、キャリア形成と自己実現につなげる。 ②「対話的な学び」 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している話を聞いたりすることで自らの考えを広めるとともに、生徒自らが考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。	(1) ア ①Asahi Cardの充実 各学年 10 枚以上書きためる。 〔1 年 10 枚、2 年 11 枚、3 年 12 枚〕 ①加えて学びの取組みの記録として 2 年生では「総合的な探究の時間」ファイルを作成し、振り返りシートを 10 枚書き溜める。 〔国際文化科 6 + 3 枚 普通科 19 + 2 枚〕 ②学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定評価 85%以上〔90%〕 ②社会人講話や模擬授業を 1,2 年で 3 回以上実施する。〔1 年 4 回 2 年 6 回〕 ③令和 5 年には、普通科でグループでの探究活動、国際文化科では個人で探究活動を行	(1) ア ①Asahi Card 〔1 年 8 枚 2 年 12 枚 3 年 10 枚〕 生徒自身がいつでも見ることができるファイルに書き溜めることで振り返りシートの役割を果たした。(△) ①「探究時間」振り返りシート 〔国際文化科 10 枚 普通科 23 枚〕 探究委員会を中心に活動内容・方法について検討する資料とした。(○) ②〔90%〕 コロナ禍を抜け、様々な形での教育活動が可能となり、高い数値目標を維持した。(○) ②計画通り実施した。 〔1 年 4 回 2 年 6 回〕(○) ③委員会が中心となり、普通科と国際文化科ともに、大阪大学の学生に

府立旭高等学校

		③「深い学び」 「総合的な探究の時間」の充実に向けて委員会を中心として全体化し、指導の方向性を確立させるとともに、現在の国際教養科の課題研究の時間を発表に結び付けて充実させる。 イウエ 学習活動の質の向上 ①指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、生徒の思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を研究する。 ②質の高い授業を提供することで生徒が自らのキャリア形成への意識を高め、さらに希望する進路実現につなげる。 .	い、校内の発表会を実施する。 ③国際文化科２年次の課題研究校内発表会をし、最終授業でのアンケートで「SDGs についての問題を考え議論することができた」の肯定評価 100%〔95%〕 イウエ ①相互授業見学 100%〔78%〕 ①学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」についての肯定的回答、65%以上をめざす。〔59%〕 ①学校教育自己診断（教職員）「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」85%以上〔90%〕 ②授業アンケート「授業内容に、興味・関心をもつことができた」についての肯定的回答、80%以上を維持する。〔85%〕 ②学力診断テスト、模擬試験等を学年毎３回以上実施。〔１年４回、２年４回、３年全員１回、希望者５回〕 ②進路に関する説明会及び講演会を合計４回以上実施。 〔保護者向け２年２月、３年５月 生徒向け２年１２月（１月海外）、３年大学別５回〕 ②大学見学会、大学による模擬授業合計３回程度実施。〔大学見学会１年１０月、大学による模擬授業２年７月、１０月〕 ②補習・講習など各種講習を充実させ、令和４年度程度の学習の機会を設ける。 〔１年 62 回 ２年 106 回 ３年 142 回〕 ②授業アンケート「授業を受け、知識や技能が身についたと感じている」についての肯定的回答、80%以上を維持する。〔87%〕 ②国公立大学及び難関私立大学（関関同立・産近甲龍・関西/京都外大）の現役のべ合格者数 250 名以上を維持する。〔285 名/８ｸﾗｽ〕	授業参加していただき、また、校内発表会では外部助言者を招聘して助言・講評をいただいた。（○） ③〔100%〕（○） イウエ ①相互授業見学〔80%〕（△） ①〔70%〕 ICT 活用やペアワーク、グループワークを積極的に活用するなど、生徒の学習に対するモチベーションを向上させる努力がうかがえた。毎時多くの教室で ICT 機器が稼働しており、授業の旭スタンダードが形成されつつある。（○） ①〔87%〕 観点別学習の評価や新カリについての改訂の趣旨を鑑み、指導内容と指導方法を積極的に工夫・改善する努力がうかがえた。（○） ②〔84%〕（○） ICT 活用やペアワーク、グループワークを積極的に活用するなど、生徒の学習に対するモチベーションを向上させる努力がうかがえた。（○） ②計画通り実施した。 〔１年４回、２年４回、３年全員１回、希望者５回〕（○） ②計画以上に実施した。 〔保護者向け全学年５月、２年２月 生徒向け１年９月、２年１０月１２月 １２月１月、３年４月５月大学別６回〕（◎） ②計画通り実施した。 〔大学見学会１年１０月、大学による模擬授業２年７月、１０月〕（○） ②補習・講習併せて 〔１年 76 回 ２年 52 回 ３年 162 回〕 ２年の各種講習会数を大きく減じているのは、内容を充実かつ精選して実施したため。取組みを総合的に判断して、課外における生徒の学習機会の保障に努めた。（○） ②〔87%〕 コロナ禍を抜け、様々な形での教育活動が可能となり、高い数値目標を維持した。（○） ②〔290 名/７ｸﾗｽ〕（○） 国公立大学 ２名 関関同立 47 名
--	--	---	---	--

府立旭高等学校

		オ ICT 等を活用して学習活動等を充実する。 ①GIGA スクール構想を踏まえ、教員が必要に応じてHR 活動や授業で ICT を活用できるようにする。 ②授業、その他で、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を養う。	オ ①グループウェアおよび ICT の活用について研修を2回程度行う〔2回〕 ②アンケートで前年度よりスキルが上がったと答える教員が90%以上を維持する。〔93%〕	産近甲龍 203 名 関西/京都外大 38 名 オ ①計画通り実施した。〔2回〕（○） ②〔86%〕 学校教育自己診断をはじめ様々なアンケートもグループウェアを活用した。昨年度の数値結果を下回っているが、活用することが通常となり、スキルの獲得に定着した感がうかがえる。（○）
2 豊かな感性・しなやかな心・社会人基礎力の育成 自律・自己実現	（3）学校の教育活動全体を通じて、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団の規範を遵守し、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動することのできる規範意識を育む	（3） ア「自主自律（校訓）」の醸成 ①自分自身で考えて行動し、自らを律することのできる精神を醸成する。 イ 学校における生活指導は学校全体で組織的かつ丁寧に行う ①生徒に服装を正す意味や挨拶の大切さを考えさせた上で、丁寧に行なう。 ②携帯の扱いについて考えさせる機会を持つとともにSNSに関係するトラブルがないよう指導を行う。 ③頭髮や服装の乱れに注意し、不注意による遅刻をなくすよう継続して指導する。また、挨拶を励行し礼儀を身につけて、社会人としての規範意識や協調性を培う。	（3） ア ①学校教育自己診断（生徒）「学校は生活規律や学習指導基本的習慣の確立に力を入れている。」85%をめざす。〔78%〕 ①メール配信、校長ブログ、式辞でメッセージを伝える。40 回程度〔51 回〕 ①集団活動（行事等）後にアンケート達成感充実感を図るアンケートを実施。肯定評価80%以上〔90%〕 ①学校教育自己診断（生徒）「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定評価 80%を維持する。〔85%〕 ①学校教育自己診断（生徒）「人権について学ぶ機会がある」肯定評価 80%を維持する。〔87%〕 イ ①②③ 学校教育自己診断（教職員）「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」肯定評価 80%以上を維持する〔83%〕 ①②③学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指導の方針に共感できる」70%以上〔63%〕 ②SNS に関するモラル指導、トラブルについての講習を行う。 ③遅刻数 1500 件以下をめざす〔2400 件〕 学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指	（3） ア ①〔83%〕 学校生活及び日々の学習において、挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、毎日机に向かって学習するなど、小さな努力を積み重ねるよう、高校生としてのあるべき姿を厳しく求める中、指導に対する生徒の理解を維持した。（○） ①〔118 回〕 学校ブログ、校長式辞、保護者・生徒対象のメール配信など、時宜を得た配信に努めた。（◎） ①〔90%〕（○） ①〔88%〕 人権行事やその他社会人講演会など教員だけでなく外部人材を活用したことが生徒の深い学びに繋がったと考える。（○） ①〔93%〕 教員からの日頃のメッセージに加え、満足度の高い取組みを企画し実施することができた。（○） イ ①②③〔64%〕 目標数値を大きく下回った。結果分析を進めるとともに広く意見集約し、次年度に向けた具体の体制を構築する必要がある。（△） ①②③〔68%〕 目標数値を上回らなかった。結果分析を進めるとともに広く意見集約する必要がある。入学の際やPTA 関係行事、長期休業前のメールや書面により丁寧な説明に努める。（△） ②計画通り実施した。（○） ③遅刻数〔2848 件〕 自己診断結果〔67%〕

府立旭高等学校

		④保護者連絡についてもできるだけ緊急メール等を利用し、保護者への周知を図る。	④学校教育自己診断（保護者）「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。」肯定評価 80%をめざす。〔67%〕	④〔68%〕 目標数値には達しないが、昨年度の数値をほぼ維持した。生徒・保護者連絡メールを有効に活用した。「積極的」な活用のイメージと具体の方策が必要である。（△）
--	--	---	---	--